



# 浮延縄漁による 海鳥混獲の防止

## 釣鈎の保護

### (フックシールディング) 概説

2019年5月更新

#### フックシールディングと その仕組み

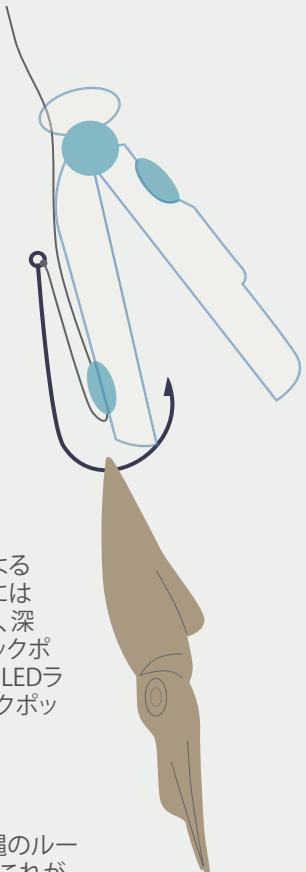
釣鈎の保護装置(フックシールディング)は、投繩の際に延縄用釣鈎の先端と返し部分を守り、投繩中に海鳥が捕獲されるのを防ぎます。海鳥は主に海上層で餌付きの鈎を攻撃します。ほとんどの海鳥が餌を獲る水深よりも深い位置まで効果的に釣鈎を保護するためには、釣鈎保護装置は水深が10mより深いところ、または浸水10分以上してから保護ケースから釣鈎を放つ必要があります。



#### フックポッド

フックポッドは、釣鈎保護の特性、重量、沈降速度、そして釣鈎を放つ最低深度に基づき、アホウドリ類及びミズナガドリ類の保存に関する条約(ACAP)の最善策基準を満たすと考えられている釣鈎の保護装置です。

この装置の重さは68gで、使用時は釣鈎(フック)に直接装着され(これによりACAPの最低枝縄重量の最低必要条件を満たす)、釣鈎の返しや先端部分をプラスチック製のケースに入れます。水圧で解除する仕組みにより、深度10m以上でこのケースが開き、餌が付いた釣鈎が放たれます。フックポッドは、上記深度で開くと、磁気スイッチで始動するLEDライトを搭載しています。このLEDは使い捨てのケミカル・ライトスティックの代用(海洋ゴミの削減)や水中灯の代用として搭載されています。



#### フックポッド・ミニ

フックポッド・ミニは小型の釣鈎保護装置ですが、ACAPによる正式な評価は行われていないため、ACAPの最善策リストには含まれていません。この装置はフックポッドと同様に作動し、深度10 m以上で開くまで、餌が付いた釣鈎を保護します。フックポッドとの大きな違いは、フックポッド・ミニの重量は45 gで、LEDライトを搭載していないことです。フックポッドと同様に、フックポッド・ミニも釣鈎に装着して使用します。

#### 問題点と解決法

フックポッドとフックポッド・ミニの構造上、投繩の際に枝縄のループを形成しますが、これに海鳥が絡まる可能性があります。これが、この装置がACAPの加重枝縄と沈降速度に関する要件を満たす必要がある理由でもあります。しかし、ループ部分の長さは枝縄に装置を装着する位置を変えることで調整できます。

#### 他の混獲回避措置との併用

これらの装置は以下の2つの性能を兼ね備えています:

- ほとんどの海鳥が餌を獲る深度より深い所でケースが開くまで、餌が付いている釣鈎を保護する。
- 枝縄への加重により、迅速な沈降を確実にする

釣鈎保護装置は単独で使用しても、トリライン(吹き流し)や夜間投繩等の他の方法と併用することもできます。

